

令和 2 年度 第 3 回 清瀬市史編さん委員会 議 事 要 旨

日 時： 令和 3 年 3 月 22 日（月）
午後 3 時～4 時
場 所： 第 2 委員会室（本庁舎 4 階）
出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、浅倉直美、吉田律人、黒川徳男、齊藤隆雄、齊藤靖夫、
岡田耕輔、黒田一美、小西一午（10 名）
欠席委員： 谷口康浩（1 名）
事 務 局： 企画部長、市史編さん室長、市史係 3 名（5 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 令和 2 年度事業報告及び令和 3 年度の事業計画について【資料Ⅰ】
3. 『清瀬市史 4 資料編 近世』について【資料Ⅱ】
4. 『市史研究 きよせ』第 6 号について【資料Ⅲ】
5. その他
6. 閉会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和 2 年度 第 3 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 市史編さん室令和 2 年度年刊事業報告【資料Ⅰ】
3. 『清瀬市史 4 資料編 近世』目次案【資料Ⅱ】
4. 『市史研究 きよせ』第 6 号 目次【資料Ⅲ】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 定刻となりましたので、これより令和 2 年度第 3 回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

会議をはじめる前に、悲しいお知らせです。皆様すでにご存じかと思いますが、去る 2 月 22 日に中澤弘行副市長が逝去されました。享年 67 歳でした。中澤さんは昭和 51 年に入庁、財政課長、都市計画課長、企画部長などを歴任され、平成 23 年 7 月からは、副市長として務められていました。また、当委員会におきましても、市理事者の立場からさまざまなご意見をいただきました。この編さん事業は、刊行が終わりましても今後とも市の歴史の編さんを継続することを前回委員会のときに市の立場からおっしゃっていただいたことは、記憶に新しいことですが、最後まで刊行を見届けていただけなかったのは、たいへん残念であります。ここに謹みまして哀悼の意を表し、黙祷をささげたいと思います。みなさまご起立いただけますでしょうか。中澤弘行副市長のご冥福をお祈りしまして、黙祷をささげます。黙祷。

ありがとうございました。

さて、コロナ禍のなかで、思うように活動できないところがあり、それぞれの先生方には苦慮なさっていると思いますが、刊行事業はなんとか順調に進んでおりますので、今後とも清瀬市史の編さんにご協力をよろしくお願いしたいと思います。伺いますところ、新庁舎への移転をひかえており、今回は旧庁舎での最後の委員会になります。清瀬の歴史が変化していく契機になろうかと思っておりますが、最後までよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、配布資料について事務局よりご説明をお願いします。

事務局

配布資料説明

2. 令和2年度事業報告及び令和3年度の事業計画について

委員長

それでは、まず、令和2年度の事業報告と令和3年度の事業計画を、時代順に部会長の先生方からお願いします。考古部会の谷口先生が本日欠席ですので、古代・中世部会について浅倉先生お願いいたします。

古代・中世部会長

古代・中世部会は既に資料編の刊行が終わっておりますので、今年度は、その補遺を刊行するという事で、そのための編集作業をいたしました。

資料編と同様、写真の配置と注を付けるということで、原稿の作成をいたしました。1月からペースを上げて仕上げをと思っておりましたところ、また緊急事態宣言により資料館等々の入館制限がかかってしまいましたもので、本来であれば本日お手元にお届けしていなければならないところ、少々遅れておりますこと、お詫びします。近日中にと考えております。資料編同様、古文書の収録になりますので、市史編さん室には手続き等、ご苦労いただきました。

今回の補遺編に加えるために編さん室を通して2,3か所、調査の依頼をいたしまして、ご快諾いただきながら、緊急事態宣言の発令を受けて、伺うのをご遠慮したところがありますので、来年度の活動計画としましては、そういったところの追加調査ができればと思っております。また、通史編に向けての打合せを進めてまいります。

一番の課題になっておりますのは、5年間の調査で撮影してきた多数の写真の整理作業です。市の編さん事業の財産として置いておくために、後から追跡できるような形で整理しておきませんと、活用がたいへんになると思います。資料編が出ましたので、外部から問い合わせも来るとありますが、そのとき編さん室の方で対応していただきやすい状態にしておけるよう、少しずつキャプションを付けていく作業を進めていけたらと思っております。以上です。

委員長

／近世部会長

ありがとうございました。

続きまして、近世について私から説明さしあげます。

まず、今年度の報告としましては、刊行を翌年度に延ばしていただきまして、現在、資料編に向けての編集作業を進めているところです。前にもお話ししたように、資料に、何月何日何が起こった、といった文章を入れ、また注を入れて少し読みやすくしていくという作業を行っており、だいぶ形になってきているところです。詳細については先の議題でご説明いたします。

コロナのこともあって近隣の調査がなかなかできずにいましたが、関

委員 長
近代部会長

係各位のご協力により、このたび叶ったものがありますので、ご報告します。1月29日に、西東京の下田家文書、下田半兵衛という田無の豪農の資料ですが、これを調査することができました。1月31日には、東村山ふるさと歴史館で、東村山の小町家文書を撮影させていただきました。また、2月22日に、東久留米の浄牧院に伺いまして、所蔵の資料を見せていただくことができました。浄牧院は、清瀬では下清戸の長源寺、中清戸の全龍寺、野塩の円福寺の本寺にあたります。当時、江戸時代には、僧侶は妻帯しておりませんで、弟子から弟子へとつながっていました。全龍寺の住職が浄牧院の住職になっていたり、また、浄牧院の住職が隠居して野塩の円福寺の住職になったりしたのですが、そういった関係の資料、また、祠堂金（しどうきん）といってお寺がお金を貸している資料、あるいは浄牧院は毎年正月に江戸城に登城しまして将軍家に拝謁できる資格を持っていましたが、江戸に行くと高輪の泉岳寺に行くと人や駕籠を借りて登城した、といった資料がありました。清瀬の寺院関係の資料がなかなか収集できていなかったのですが、ここにきて調べることができましたので、これらも資料集に入れていきたいと思っています。

来年度につきましては、前半は資料集の編集作業、特に校正作業に多くの時間が費やされると思います。印刷原稿ができてきますと、元の文書の写真と合わせて正しく翻刻されているかを一字一字、確かめていかななくてはなりません。それが終わった段階で、通史のことも考える。また、集めた資料の中に、資料編には載せられないのですが、良い資料がありますので、そうしたものを報告書として出していき、そうした作業に従事したいと考えています。近世について、以上です。

次に、近代について、吉田先生お願いします。

昨年7月に部会長に就任しましたので、それ以降についてご報告いたします。前任の高村先生、現代部会の黒川先生が定められた方針に従いまして、近代部会、現代部会合同で作業を進めています。

近代部会は令和6年度に資料編刊行の予定で、それに向けて関連する資料の調査、抽出作業を行っています。国、県のアーカイブズを調査しながら、北多摩郡を含め清瀬関連の資料収集を進めていました。目録で資料の見当はつけられても、コロナの影響で各館の入場制限がかかるなどして現物を見ることがなかなか叶わず、思うように調査が進められない状況にあります。来年度には、様子を見ながら調査を進めていきたいと考えています。

一方で、清瀬市内の行政文書、旧家の文書などにつきましては、部会員が中身をチェックしながら近代に関する文書の抽出を進めています。また、考古部会で旧家の文書を整理してくださっているので、そのなかから近代関係のリストアップ作業を行なって来ました。そうした中に、日記の類も出てきますので、その翻刻も併せて進めているところです。

次年度は、東京都、埼玉県、神奈川県公文書館が持っている資料を、実際に足を運んで調べたいと思っています。今年は、できませんでしたので。国立公文書館や防衛省の防衛研究所にも関連資料を持っている部署がありますので、そうしたところの関連する資料をピックアップしていきたいと思っています。

近代には日清、日露という大きな戦争がありましたので、それに関する調査を進めたいと考えています。戦争記念碑の調査、例えば市内の日枝神社には、表忠碑という戦争中に出征した人を顕彰する石碑がありますが、そうしたものの調査、あとは北多摩郡役所があった府中市の大國

委員長
現代部会長

魂神社にも同様の石碑がありますので、そうしたところから、いつどこで清瀬の方々が戦争に行っていたのか、ということ調べたいと考えています。以上です。

続いて、現代部会のご報告を黒川先生からお願いします。

近代部会との重複を避けてご報告します。清瀬は医療の街ですが、医療からいろいろな分野に派生してきます。例えば、医療から医療教育への派生です。リハビリテーション学院という機関がありましたが、ここは理学療法士、作業療法士の教育の日本で最初のものである。リハビリテーション教育は清瀬から始まっているということで、昨年度はリハビリテーション学院の資料を調査、整理してきました。

また、医療から社会問題、社会運動に波及していくということがあります。これについては、先日、東京アフターケア協会から、患者同盟についての資料を作業室へ借り受けて来ていますが、これがごく一部であって、協会にはまだ多くの資料があるということです。今後、これらの資料を整理、活用していくことを考えています。

それから、医療から文化への波及です。結核の療養のためにさまざまな文化人、作家や俳人が清瀬に来られて、作品や手記を遺している。これらについても調査を継続しています。これからもやっていきたいと思えます。このあたり、清瀬市史においては、医療、および医療がさまざまな分野に波及していくということが現代編の特色になろうかと思えます。

公文書や地方（じかた）文書についても、調査を継続していき、筆耕も進めていきます。

新聞に関しては、図書館所蔵の新聞多摩版のスクラップについて、目録作りを進めていますので、これも活用していきたいです。

それから、広報紙については、縮刷版だけでなく、事務局によりまして、昭和31年から平成14年までの広報をCDにまとめていただきましたので、ここから重要なものを抽出する作業を進めています。

このような作業を進めつつ、資料編の刊行を見据えて、筆耕、原稿執筆等を、来年度進めていくことになります。

委員長
事務局

ありがとうございました。続いて、事務局からお願いします。

市史編さん室の活動報告の前に、本日欠席の考古部会長、谷口先生より報告内容をお預かりしていますので、そちらをご紹介します。

考古部会の令和2年度の活動としましては、下宿内山遺跡、伊勢遺跡の報告資料の再検討を行ないました。また、下宿内山遺跡実測図をデジタル化しました。考古資料編に掲載する写真の選定も行なうということです。

伊勢遺跡出土資料の再整理報告書を刊行するというので、編集作業を進めています。未報告資料の調査、個人蔵資料の調査等も行なわれました。

委託事業としまして、考古資料編の口絵に掲載する縄文土器の修復作業を一部行ないました。また、下宿内山遺跡の古代の住居跡等から出土した炭化した植物種子の同定分析を行い、栽培種のモモということがわかりました。

令和3年度の活動としましては、縄文土器の修復作業を引き続き行ない、土器の修復が終わりましたら、資料編口絵の撮影を行なっていきます。また、圧痕土器のX線写真撮影を行ないます。報告書としましては、旧石器時代の未報告資料の報告書刊行を考えています。

続きまして、市史編さん室の事業報告を致します。【資料Ⅰ】をご覧ください。

まず、市史編さん委員会を、本日を含め3回行ないました。

次に、刊行物の関連です。刊行した古代・中世の資料編の普及ですが、献本が515冊、販売が90冊でした。コロナ禍の中でなかなか販売する機会を持てませんでしたので、これから先、販売に努めたいと思います。本日ご報告します普及に関する数字は、いずれも令和3年3月15日現在のものです。

また、『清瀬 あの頃 この景色 市制施行50周年記念誌』を刊行しました。掲載写真の選定等、ご協力いただきましてありがとうございました。3,000冊を刊行しまして、1冊500円で販売しています。販売実績は257冊、献本が864冊です。市内、近隣の図書館、また市内の各学校にも複数冊寄贈しました。今後も頒布に努めてまいります。

続きまして資料には、『市史研究 きよせ』第1号から5号までの売り上げ数字をお示ししています。6号については、現在編集を進めているところです。

次に、資料調査報告書ですが、昨年度末刊行しました『清瀬市史 資料調査報告2 縄文時代末報告資料・縄文土器圧痕調査報告書』についての普及実績は、献本179冊です。販売の方はこの2月に開始したばかりです。まだ実績がありません。

今年度の予算で2つの資料調査報告を刊行します。ひとつは、『清瀬市史 資料調査報告3 伊勢遺跡出土の旧石器時代資料―再整理調査報告―および清瀬市内末報告資料の調査』300冊、もうひとつは、『清瀬市史 資料調査報告4 資料編 古代・中世補遺』500冊の刊行です。掲載資料の許諾事務、入稿補助、校正補助を市史編さん室で行ないました。

市制施行50周年関連の取り組みとしまして、記念誌の刊行のほか、記念パネル展「清瀬なつかし写真館『昭和45年』清瀬市誕生の年」を、清瀬市役所ロビー、清瀬駅北口ペデストリアンデッキ等、市内4か所で行ないました。現在も、けやきホールと健康センター2階、また清瀬市ホームページ上では、引き続き展示しておりますので、機会があればぜひご覧ください。また、「清瀬の記憶」をお寄せいただく仕掛けも考えましたので、こちらもご協力ください。

市制施行50周年関連としましては、「市報きよせ」10月1日号の特集記事作成にも協力いたしました。

附帯事業ですが、「市報きよせ」に令和元年10月から令和2年9月まで昭和40年代の清瀬を紹介するコラム「タイムトラベル S40s」を連載したほか、市史編さんブログ「市史で候」を随時更新しました。

付帯事業、資料・情報収集についての詳細は資料をごらんください。以上です。

委員長

ありがとうございました。以上ご報告いただきましたが、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

委員

了承

3. 『清瀬市史 4 資料編 近世』について

委員長
／近世部会長

次に、『清瀬市史 4 資料編 近世』について、私からお話いたします。
【資料Ⅱ】に目次をお示ししております。全部で8章に分かれており

まして、それぞれの章のテーマに沿って清瀬市内あるいは周辺の資料を編成しています。

第1章「村のすがた」、第2章「村のしくみ」では、村の中のようなすがたがわかるもの、村の概要を示すもの、村の負担、村の自治、村の政治にかかわるようなもの、「村のきまりごと」として法令ですとか、村でつくった村の掟などを収録します。

第3章「村のなりわい」では、産業にかかわる資料、柳瀬川の水利に関するものが多いのですが、他に新田の資料も載せます。ちょうど野火止新田が開発されているとき、芝山のあたりも川越藩が開発して、その資料が新座にあります。また、江戸幕府の享保改革の新田開発が、中里、野塩あたりでも行なわれているという資料、水車に関する資料や、新河岸川を使った志木の商店と清瀬市内の村々の取引等の資料を入れております。

第4章は「村と領主」としまして、特に柳瀬川沿いに旗本が領地を持ちますので、その関係の資料や、そうした旗本たちの系図などの資料を入れます。また、鷹場の問題、代官の支配の問題、特に中里村では武蔵という旗本が幕末まで地域を支配しておりまして、その関係の資料を紹介いたします。

第5章「変わりゆく村」では、次第に近代へとつながっていく問題で、村で災害とか凶作といった問題に対して穀物を蓄えたり、維持したりした資料を、第6章「家のくらしと人の人生」では人口関係の資料とか、出産、婚姻、葬儀の資料など、村の人たちが協力しあうつきあいに関する資料などを載せます。

第7章は「村の信仰・教育・文化」です。寺院の問題では、さきほどお話した浄牧院の資料などを使います、祭礼や講、あるいは例えば伊勢参りの記録もありますので、そういった資料、手習いや人々の学びについての資料を載せます。江戸時代の終わりになると、この辺りに俳諧が流行します。清瀬で俳諧というと石田波郷に始まると思っている人も多いのですが、実はそれより百年も前から俳諧が流行していました。特に、下宿の高橋家では「車友（しゃゆう）」という俳人が活躍しているので、そういったところを考えています。

第8章では村の幕末、幕末のなかでの変化、その変化に対してさまざまな負担が要求され、それにどのように地域が対応していったかという資料などを集めております。

このような形で、清瀬市史の資料編近世の構成を考えておりまして、いま、編集作業が進んでいるところです。以上です。

事 務 局

装丁については、今年度第1回委員会でお諮りしまして、古代・中世編と同様ということで皆様からご了承いただいているところです。部数は、1000部であること、800ページのモノクロ印刷で刊行することが決まっております。刊行スケジュールとしましては、来年度のはじめに入稿していただき、秋口に刊行したいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

委 員

先日、小平の方から聞いた話で、小平は新田開発がずいぶんなされているということですが、清瀬の新田開発というのはどういったものだったのでしょうか。

近世部会長

小平の新田開発は、江戸時代の前期に小川新田という新しい畑ができて、それが現在の小平の中心になっていく、つまり17世紀の後半から村ができていきます。清瀬では、柳瀬川沿いの下宿、中里、野塩辺りは、

委員長
委員
委員

既に中世から村ができていました。小平の小川新田ができるころには、下宿からだんだんと下清戸、中清戸、上清戸まで、ある程度まで開発されていて、小平とは異なる様相を示しています。ある意味では下清戸、中清戸、上清戸は、小川新田より前の 16 世紀後半から 17 世紀前半の新田だという意味で、先輩の新田だと言えると思います。

ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

第 7 章の教育文化について、ひとつよろしいでしょうか。今回の市史ではそれほど重要ではないかもしれませんが、清瀬には割合に講がたくさんありまして、中清戸では自治会が公式に 2 つの講に入っています。ところが、去年あたりから代参をとりやめて、御札、祈祷料等は郵送でやりとりすることになりました。代参をしていたころは、御師（おし）さんの家に行きますと、けっこう古文書が残っていて、目にする機会もあったのですが、郵送で済みますようになると、そうした古文書に触れる機会がなくなり、記憶も薄れると思いますので、今のうちに記録に残していただけたらと思います。

近世部会長

市内に残る資料しか見ていないのですが、昔、榛名の御師の家に別の調査の機会で行ったことがあります。武蔵の村々を歩いたといった資料が御師の家に残っていました。調査ができれば、資料が出てくるかと思えます。

委員

後からでもいいと思うのですが、今、そういう時期にあるということをお伝えしておきます。

近世部会長

ありがとうございます。コロナが収束して通史までに調査ができればと思います。場合によっては近代と一緒に調査していくということも必要かもしれません。

委員

農業の問題が取り扱われていますが、このあたりで農業というと、雑木林のことが不可欠かと思えますので、そのあたりも触れていただけたらと思います。

近世部会長

あくまでも近世の資料集で、雑木林はなかなか出てこないのですが、一方で、例えば武蔵野の新田開発では「林畑（はやしばた）」といって、畑として年貢は取るが、実は雑木林というようなことがあったようです。特に享保改革の新田政策のなかでは、実際は松の木が生えているような雑木林を畑だといって無理やり年貢を取ろうとした。資料としては見えにくいところもあるので、気を付けようとは思います。

隣の野火止あたりでも、街道があって屋敷があると、屋敷の次が上畑（じょうばた）、次が中畑（ちゅうばた）、下畑（げばた）、下々畑（げげばた）、と短冊形に分けていました。さらに奥は、「野（の）」といい、それが雑木林になっていくのですが、「野」と書いてあっても、植生がどうか、どう利用したかについては、文書による命令がありませんので、文章としては出てこないのです。特に清瀬でも芝山は、雑木林として使われていましたが、文章として残るものがなく、慣習で行なわれていたことについては見えてきません。そこで大きな争いがない限り文書には出てこないのです。それが文書の特徴であろうかとも思います。

委員長
委員
委員長

他にはよろしいでしょうか。

了承

ありがとうございます。では、このような形で編集して、4 月には原稿ができ、形になる予定です。

4. 『市史研究 きよせ』第6号について

委員長
事務局

次に、『市史研究 きよせ』第6号について、事務局からお願いします。
今日、ゲラを持ってまいりましたが、表紙は鮮やかな緑を考えています。内容ですが、【資料Ⅲ】をご覧ください。第6号の目次をお示ししています。主なところをご説明します。

口絵には、50周年記念誌の表紙写真を持ってきました。また、「きよせ懐かし写真館」では、市制施行10周年以来のこれまでの周年記念事業の写真を紹介しています。

「市民が語る清瀬の歴史」では、「病院街での日々」と題して、患者、回復者として、また患者を支えた医療ソーシャルワーカーとして、それぞれ病院街で過ごされた方々からの聞き取り調査の報告を3本掲載しております。

紹介記事としまして、「下宿内山遺跡の近世～近現代資料」を紹介しています。

また、市制施行50周年にあたる年の刊行ですので、昭和45年の市制施行に至る経緯を紹介する記事、記念パネル展の報告記事も用意しました。

「石碑・石仏探訪」は、今回3名の委員の方々に書いていただきました。

今年度の新型コロナウイルス感染拡大防止のための取り組みについて、「新型コロナウイルスと清瀬」ということで、一連の流れをまとめています。

ゲラを置いておきますので、よろしければご覧ください。

委員長
委員

この件につきまして、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

了承

5. その他

委員長
現代部会長

その他につきまして、何かありますでしょうか。

特に医療関係の資料ですが、量的に多くの資料が出てきて、資料編だけでは収まりきらないというお話を前回いたしました。清瀬の市史編さん事業が終わったあとも継続的に報告書や資料集を出す必要があるというお話もいたしました。全体でそういう話の流れにもなっていると思います。

また、事務局でも、文化人、小説家等々の資料も収集していただいているのですが、そうした資料は、量的な問題というよりも、内容的な問題で資料編に載せにくかったりします。というのは、客観的な資料というより、主観的な資料になるからです。患者さんの精神的な営みが書かれていたり、お医者さんの手記も主観的に書かれている。ただ、現在のコロナ禍にあって、そうしたものは重要だと考えます。過去、結核が流行していたころの患者の心の在り方とか、医療従事者の精神的な営みは重要だと考えますので、市史に載せられないとしても活用しておきたい。あえてフィクションが混じっていたり、主観的に書かれたものであっても、あえてそれを掲載する、という資料集が市史とは別にあってもいいかと考えます。これが、ひとつ。もうひとつは、東京アフターケア協会

からの資料についてです。清瀬は医療の街なので、これからこのような医療関連の資料が出てくる可能性があります。医療の街としての姿を象徴的に考えれば、医療関係の資料を収集、保存、展示、公開していくような機関の存在を将来的に見据えながら、医療関係資料の保存を考えていく必要があろうかと考えています。

委 員 長

ありがとうございます。非常に建設的なご意見だと思います。今後、ぜひ考えていく必要がありますし、編さん室とも調整していければと思います。

事 務 局

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

来年度の委員会開催予定ですが、第1回を6月末から7月初旬に考えております。近くなりましたら日程調整のご相談をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

委 員 長

ほかに、よろしいでしょうか。

事 務 局

もうひとつ、組織の変更についてです。来年度、郷土博物館が教育委員会から企画部に移りまして、郷土博物館長と市史編さん室長を木原が兼務いたします。みなさまには引き続きご指導ご鞭撻いただければと考えております。

委 員 長

たいへんなお立場を兼務されるということで、お体を大切になさってください。一方で、これから市史編さんが進めやすくなると思います。そういう意味で私達にとっては非常に喜ばしいことと受け止めます。よろしくお願いします。

ほかによろしいでしょうか。ないようでしたら、皆様のご協力により予定通り1時間で議事を終了することができます。

6. 閉 会

委 員 長

これで、令和3年度第3回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

〈市史編さん室〉
令和 2 年度年間事業報告

1 市史編さん委員会運営

清瀬市史編さん基本方針に基づく編さん事業の管理

(1) 市史編さん委員会の開催（年 3 回）

〔第 1 回〕令和 2 年 7 月 27 日（月）

〔第 2 回〕令和 2 年 12 月 21 日（月）

〔第 3 回〕令和 3 年 3 月 22 日（月）

(2) 部会長会の開催

令和 3 年 3 月 22 日（月）

(3) 専門部会の運営 ※各部会活動報告参照

2 刊行物関連

(1) 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』

献本等 515 冊（市内各図書館、掲載資料所蔵者、多摩地域図書館、国会図書館等）

販売（1 冊 2,000 円） 90 冊

(2) 『清瀬 あの頃 この景色 市制施行 50 周年記念誌』

ア 原稿作成（第 1 部、第 2 部、付録等）

イ 入稿補助（第 3 部）

ウ 校正、校正補助

エ 刊行 3,000 冊

オ 普及

献本等 867 冊（市内各図書館・学校、近隣市、国会図書館等）

販売（1 冊 500 円） 257 冊

(3) 『市史研究 きよせ』（1 冊 300 円）

ア 第 1 号の普及（刊行部数 700 冊）

献本等 18 冊（調査先等）

販売 20 冊

イ 第 2 号の普及（刊行部数 600 冊）

献本等 17 冊（調査先等）

販売 21 冊

ウ 第 3 号の普及（刊行部数 600 冊）

献本等 20 冊（調査先等）

販売 21 冊

エ 第 4 号の普及（刊行部数 700 冊）

献本等 38 冊（調査先等）

販売 23 冊

オ 第 5 号の普及（刊行部数 700 冊）

献本等 308 冊（市内各図書館・学校、近隣市機関、調査先、国会図書館等）

販売 48 冊

カ 第 6 号の編集・発行（700 冊刊行予定）

(4) 資料調査報告書

ア 清瀬市史 資料調査報告 2「縄文時代未報告資料・縄文土器圧痕調査報告書」の普及
献本 179 冊 (刊行部数 300 冊)

令和 3 年 2 月販売開始 (1 冊 750 円)

イ 清瀬市史 資料調査報告 3「伊勢遺跡出土の旧石器時代資料―再整理調査報告―および清瀬市内未報告資料の調査」の刊行 (300 冊刊行予定)

ウ 清瀬市史 資料調査報告 4「資料編 古代・中世 補遺」の刊行 (500 冊刊行予定)
資料掲載許諾事務、入稿補助、校正補助

(刊行物普及に関する数字は令和 3 年 3 月 15 日時点のもの)

3 市制施行 50 周年関連の取組

(1) 50 周年記念誌の刊行 (2 (2) 参照)

(2) 50 周年記念パネル展「清瀬なつかし写真館『昭和 45 年』清瀬市誕生の年」を市内下記 4 か所及び清瀬市ホームページ上にて実施

ア 市役所 1 階…横長 A3 判

イ 健康センター 2 階…横長 A3 判 継続中 思い出や感想を寄せていただくコーナーも設置

ウ ペDESTロリアンデッキ…縦長 A2 判

エ けやきホール 1 階…横長 A3 判 継続中 思い出や感想を寄せていただく投稿箱も設置

オ 清瀬市ホームページ 市制施行 50 周年記念ページ…継続中

(3) 「市報きよせ」10 月 1 日号の特集記事作成協力

4 市史編さん付帯事業の実施

(1) 市史講演会

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和 2 年度は中止

(2) 市史編さんブログ「市史で候」

ア 市ホームページで更新ならびにプリントアウト版の更新

六十五の巻 タイムトラベル S40s

六十六の巻 清瀬の縄文ムラと中期縄文文化

六十七の巻 新しい市史 刊行開始!

六十八の巻 9 月始まりの 2 校

六十九の巻 市制施行への道程 前編

七十の巻 市制施行への道程 後編

七十一の巻 タイムトラベル S40s 続編

七十二の巻 療養所ノ文芸同人誌求ム

七十三の巻 令和のカメラがとらえた清瀬のタヌキ

七十四の巻 「清瀬の記憶」募集中

イ 職員掲示板に更新分をアップ

ウ 庁内限定番外編 Part II「清瀬ゆかりのあれやこれ」(半数勤務中の市職員に向けて発信)

(3) 「市報きよせ」での「タイムトラベル S40s」連載 (令和元年 10 月より)

[4 月] 第 7 回 元町 清瀬駅北口

- [5月] 第8回 下宿 清流橋とふせぎの蛇
- [6月] 第9回 竹丘 竹丘団地
- [7月] 第10回 野塩 秋津駅
- [8月] 第11回 中清戸 中清戸都営団地
- [9月] 第12回 中里 清瀬町役場のバス停

(4) きよせ出前講座

今年度は実施なし

5 資料・情報収集

(1) 購入

療養文学関連資料

石田波郷『惜命』初版本、福永武彦『風土』初版本・転居通知葉書（東京療養所住所記載）
救世軍清心療養園内句会誌『青桐』（昭和25年10月号）

(2) 資料提供の呼びかけ

(3) 資料受け入れ

ア 庁内資料

再開発関連刊行物、ポケットコンピュータ、市刊行物 ほか

イ 市民提供資料

鹿地亘氏関連資料、地図、爆弾破片、銭湯（伸光湯）写真、刊行物 病院写真ほか

ウ 考古資料（土器・石器）

(4) 資料整理

未報告・既報告考古資料

森田家より借用資料

渋谷家より借用資料

(5) 聞き取り調査の設定（詳細は現代部会報告参照）

(6) 市内の遺跡・遺物に関する聞き取り調査

(7) 委託事業

下宿内山遺跡炭化種実同定分析

縄文土器修復業務

(8) 療養文学関連資料調査

(9) 市内記録

ア 現庁舎および新庁舎建設の記録写真

イ 新型コロナウイルス関連情報の記録収集

ウ 中里火の見櫓の解体の記録写真

6 その他

(1) 結核関連事業への協力

ア 結核予防会と清瀬市によるブックカバー制作

以上

『清瀬市史 4 資料編 近世』目次案

- 第1章 村のすがた
 - 第1節 描かれた市域
 - 第2節 村のありさま
 - 第3節 村の記録・見聞
- 第2章 村のしくみ
 - 第1節 村のかたち
 - 第2節 村の負担
 - (1) 中里村の年貢・諸役
 - (2) 野塩村の年貢・諸役
 - (3) 上清戸村の年貢・諸役
 - (4) 中清戸村の年貢・諸役
 - 第3節 村の自治
 - (1) 村役人の任免と資質
 - (2) 年貢の取立・納付
 - (3) 村の要求・要望
 - (4) 村の経費
 - (5) 村の記録
 - 第4節 村のきまりごと
 - (1) 幕府の法令・命令に対するきまり
 - (2) 村の運営・負担に関するきまり
 - (3) 資源に関するきまり
- 第3章 村のなりわい
 - 第1節 農業と水利
 - 第2節 広がる耕地
 - (1) 野火止の開発
 - (2) 武蔵野の新田開発
 - 第3節 さまざまなりわい
 - (1) 水車経営
 - (2) さまざま取引
 - (3) さまざま生業
- 第4章 村と領主
 - 第1節 旗本の入部と系譜
 - 第2節 尾張藩鷹場の村
 - 第3節 代官の支配
 - (1) 幕府の高札
 - (2) 代官の交替等
 - (3) 代官所の役人
 - (4) 下宿村高橋友右衛門と代官所
 - 第4節 中里村と武蔵氏
- 第5章 変わりゆく村
 - 第1節 土地売買と金融
- 第2節 交通と流通
- 第3節 村の事件
 - (1) 盗難・酒狂
 - (2) 江戸持参金差戻出入一件
- 第4節 村々の連帯
- 第5節 災害と貯穀
 - (1) 火事
 - (2) 凶作への対応
 - (3) 貯穀
 - (4) 郷蔵・穀箱
 - (5) 合力
- 第6章 家のくらしと人の一生
 - 第1節 家と村人
 - (1) 宗門帳
 - (2) 人別送り
 - (3) 家出と欠落
 - 第2節 婚礼と出生
 - (1) 婚姻
 - (2) 孫祝
 - (3) 紐解祝
 - 第3節 相続の諸相
 - 第4節 葬祭と供養
 - 第5節 普請と家をめぐる事件
- 第7章 村の信仰・教育・文化
 - 第1節 村の寺院
 - 第2節 祭礼と講
 - 第3節 代参と旅
 - 第4節 手習いと学び
 - 第5節 俳諧の流行
- 第8章 村の幕末
 - 第1節 ペリー来航と海防の影響
 - (1) ペリー来航と清瀬の村
 - (2) 熊本藩による海防と清瀬の村
 - 第2節 和宮の下向と将軍家茂の上洛
 - (1) 和宮の江戸下向
 - (2) 将軍家茂の京都上洛
 - (3) 将軍家茂の進発
 - 第3節 江川農兵と戊辰戦争
 - (1) 幕府代官江川の農兵取り立て
 - (2) 武州世直し一揆
 - (3) 戊辰戦争と清瀬の村々

『市史研究 きよせ』第6号 目次

- ・ 口絵 『清瀬 あの頃 この景色 市制施行 50 周年記念誌』 …口絵 1 頁
 きよせ懐かし写真館 ～市制施行周年記念事業～ …口絵 2～4 頁
- ・ 目次 …1 頁
- ・ 市民が語る清瀬の歴史「病院街での日々」（現代部会） …2～35 頁
 - ・ 入院と回復後の市民生活 ―酒井美加子さんに聞く―
 - ・ 教会が結ぶ患者とコロニーの縁 ―清瀬聖母教会の方々に聞く―
 - ・ 結核患者を支えた医療ソーシャルワーカー ―貝塚レイさんに聞く―
- ・ ≪紹介≫下宿内山遺跡の近世～近現代資料（考古部会） …36～37 頁
- ・ 昭和四十五年十月一日 清瀬市市制施行 …38～44 頁
- ・ 清瀬市市制施行 50 周年記念パネル展
 「清瀬なつかし写真館「昭和 45 年」清瀬市誕生の年」 …45～53 頁
- ・ 専門部会の動き（考古／古代・中世／近世／近代／現代） …54～63 頁
- ・ 市史編さん草子「市史で候」つまみぐい …64 頁
- ・ 石碑・石仏探訪 …65～67 頁
 - 金山権現の石碑（齊藤隆雄）
 - 石田波郷句碑（小西一午）
 - 平和の塔（黒田一美）
- ・ 記録 新型コロナウイルス感染症と清瀬 …68～71 頁
- ・ 市史編さん覚書 …72～81 頁
 - 基本方針
 - 編さん委員会開催状況
 - 「市史で候」タイトル一覧
 - 関係者名
- ・ 編集後記・書誌情報 …82 頁

（ページ数調整用頁 資料提供のお願い）